

## Tax&Law

今回は前回に引き続き経営数値について解説します。

### Ⅲ、安全性分析

#### (1) 安全性分析とは

「安全性」とは、「資金繰りの安全性」のことであり、それは企業の支払能力の大きさを意味します。支払い能力を測定する「安全性分析」には、次の2つの方法があります。

① 一時点における安全性・・・ $\frac{\text{支払手段}}{\text{支払義務}} =$ （「流動比率」等）

② 一定期間における安全性・・・ $\frac{\text{支払に充てうる収入}}{\text{支出額}} =$ （「経常収支比率等」）

企業を取り巻く環境変化が激しい今日では、一時点（静的）の分析だけでなく、一定期間（動的）な支払能力分析の重要性が増しています。

#### (2) 指標の活用のポイント

流動比率が数字的には良くても、資金繰りに奔走しなければならないこともあり得ます。企業が資金不足に陥る原因としては次のようなことが考えられます。

- ① 代金回収の遅れ・貸倒れの発生
- ② 棚卸資産の増加
- ③ 過大な設備投資
- ④ 自己資本の不足
- ⑤ 利益の不足

#### (3) 資金繰り計画表の作り方

いくら売上高が多くても、資金がショートすれば経営は破綻してしまいます。いつ資金が必要になるか予測することが大切です。

当然その前提として、損益予測が必要ですので、変動損益計算書を作成してから資金繰りを検討します。

月次資金繰り予定表

		6月予想	7月予想
月中売上高		70,240	70,640
月中仕入高		54,544	54,884
前月繰越金 (A)		31,800	22,209
現金収入	現金売上高	14,880	15,000
	その他雑収入	800	1,400
	売掛金回収	56,349	53,889
	手形決済	0	0
合計 (B)		72,029	70,289
現金支出	現金仕入高	0	0
	買掛金支払	45,218	44,637
	支払手形決済	10,950	7,300
	人件費	11,000	14,500
	その他固定費	2,450	2,450
	長期借入金返済	9,652	9,652
	支払利息割引料	2,350	2,350
	設備費	0	0
	税金	0	1,200
	その他	0	0
合計 (C)		81,620	82,089
A+B-C		22,209	10,409
資金調達	借入金	0	0
	手形割引	0	0
	その他	0	0
翌月繰越金		22,209	10,409